



== 夏だ！キャンプが楽しい ==

写真は孫さんキャンプ (7月28~29日)

今年で4年目を迎える孫さんキャンプは大杉谷にゆかりのある子供たちが大杉谷の暮らしや遊びを体験するキャンプです。

大杉谷で過ごした2日間が子供たちの脳裏に刻まれたことでしょう。



【大杉谷自然学校 夏キャンプ】

夏になると大杉谷自然学校では、キャンプ・キャンプの日々を送っています。

特に夏休み期間中は、多くの子供たちの参加があり、連日連夜大賑わい！

普段の生活で自然に触れ合う機会が少なくなった子供たちにとっては貴重な体験ができるキャンプとあって人気があります。

大杉谷にゆかりのある子供たちを参加させては如何ですか？

夏の宮川は、エエニャー 開催のお知らせ

田舎ぐらし体験の一環として、清流宮川での川遊び、大杉谷の自然体験、鮎のつかみ取り、いかだ遊び、バーベキューを下記により実施します。

親類やお友達にお声がけください。申込及び問い合わせは下記までご連絡ください。

記

日 時：8月24日（土） 午前10時～16時

参加費：小学生以上 3,500円 幼児 1,000円

場 所：大台町岩井真砂子地内

主 催：大杉谷地域活性化 やったる会

申 込：大杉谷出張所（78-3001）まで

～備えあれば憂いなし～『薬3日分 食糧1日分 避難』



最近、全国各地で集中豪雨が発生し、平成16年に旧宮川村を襲った豪雨災害を思い出すようなニュースが連日流れています。

そこで、もう一度「避難」について考えてみましょう。

1. 避難は迅速かつ安全に。

まだ小雨だからと言わず、警報や避難勧告が出てから準備するのではなく、日頃から地震等に備えて準備をしておくこと。

2. 避難所生活が長引くことを予測して。

避難する場合は、食糧最低1日分（腐りにくい物）、薬（2～3日分）は必ず準備し、避難所生活が長引くことも予測して準備しておくことが重要です。

3. 避難する場合はだれかに伝えておく。

避難所へ行く場合も自宅待機する場合も必ず誰かに居場所を伝えておきましょう。

これから本格的な台風シーズンを迎えます。最近の雨の降り方は局地的な集中豪雨です。どんなに雨に強いと思われている場所でも被害は出ています。

今一度防災意識を高め、いざという時に備えるよう心がけてください。



人口の動き（前月比）

住基人口	世帯数
277	152
(-1)	(-1)

男	女
115	162
(±0)	(-1)

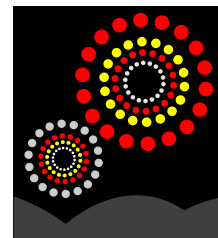
あとがき
今年、日照りに悩まされる夏になりそうです。1カ月以上まとまった雨が降っていないので川の水位は低下、泳いでいても清流には程遠い水質です。雨が多いイメージの大杉谷が日照りとは……。何でも「ちようど良い」が一番ですね。
さて、どの家庭も、お盆の帰省で食事や布団の世話に大忙しだと思えます。特に大杉谷では「しゃくりの網入れ」を楽しみに帰省する方も多いのでは。皆さんが帰った後片付けが終ったら、一休みして体調を整えましょう。

〔野呂〕



集落支援員あらいの諸行無常な日々

暑中お見舞い申し上げます
炎暑ことのほかきびしい中、
皆様お変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。



さて、先月の参議員選挙、全国の投票率は52・61%だったそうですが、今回の選挙からインターネットを利用した選挙活動が解禁になったこともあり、私の周りの同世代の友人知人の間では、いまだかつてなく多くの人が政治に注目・関心をもち積極的に選挙に参加していたように感じました。

これまでは、どちらかという自分が暮らす地域の行政、国政に他人事のように無関心だった人々も、2年前の東北の震災以降、自分たちを取り巻く社会や政治に関心を持つようになった人が増えてきたのではないかと思います。特に、福島原発事故を通して子を持つ親世代は、自分たちの現在の選択や決断が、日々暮らす環境や、自分たちの子や孫の未来に影響を与えることに気付くきっかけになったように思います。自分たちの暮らす地域や日本の将来について考えることを無責任に人任せにせず、自分自身も共同体の一員だという意識で何事にも関心を持つことがまずは大切なのではないかと改めて感じています。

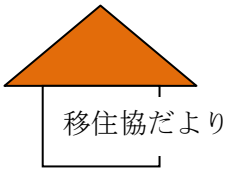


【昨年、領内地区で行われた「小滝の地域づくりを考える会」の様子】

大台町では、数年前から住民が一緒に地域を点検し、話し合いをしたり、提案をまとめる住民参加型の「ワークショップ」という手法を取り入れた地域づくり活動を行っていて、今年から私もその研修に参加させて貰っています。

「ワークショップ」では住民自らが地域のことを考え、意見を述べ、住民が計画づくりの中心となり参加することで、自分たちの計画という認識も高まることから、地域づくりの有効な手法として期待が高まっています。

以前に比べ、年々地域の住民が一堂に会する場も減り、地域の将来を話し合う機会も減りました。自分たちの暮らす地域の良いところ、問題点を住民同士で共有し、住み慣れたこの大杉谷でより良く、より長く安心して暮らせるよう、知恵や力を出し合える場を今後準備できればと思います。



岐阜・三重合同移住相談会に参加してきました！

大杉谷移住促進協議会では、地区の過疎化を緩和し、地域の方々が安心して生活が続けられるよう、移住者を誘致する活動をしています。

去る8月4日（日）名古屋駅近くのビルで「岐阜・三重合同移住相談会」が開催されました。久々の都会にドギマギしながらの参加です。

今回の大きな目的

- ☆先輩岐阜県の取組みを知ること
- ☆都会の様々な移住希望者に会うこと

岐阜県の官と民が一体となった取組みはさすがで、長い間試行錯誤を積み重ねて作り上げた内容に圧倒される思いでした。県庁が民間の“地域の世話役”を育てるなど、丁寧な取り組みが特徴でした。

大台町コーナーへの来場者は、ほとんどが初めて大台町を知った方でした。「大台町はどんな所ですか」「雪は積もりますか」「学校はありますか」「空き家がありますか」「どんな仕事がありますか」などの質問を受け、その都度実際の様子を伝えました。

そんな中で印象的だったのはご両親が旧宮川村の出身だという若い女性です。

「両親は旧宮川村出身です。とても良い所だと聞いて育ちました。村にはもう家も土地も無いけれど、三重県に戻るために学校を卒業してからお金を貯めてきました。準備が整いましたので、移住先を探しています。趣味は鮎・アマゴ釣りです！山を買って山林の手入れも自分でしたい。旦那さんを見つけて子供を育てたい！」と熱く語られました。

そんな話を聞くと、その温めてきた想いにこちらも答えたくなくなってしまいます。大杉谷の孫さん曾孫さん世代にも父祖の地に戻ろうと思っていらっしゃる方がきっと沢山いる。そんな希望を抱いた今回の出会いでした。

最近では交通網やインターネット通信の普及によって、普通の職場でも都会と地方の差が小さくなりつつあります。生活費は都会より安く済み、田舎も暮らしやすくなっています。

地域の皆様のご親戚やお孫さん世代でUターンをお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひ大台町企画課や大杉谷移住協までお声かけ下さい。よろしく願いいたします。

大杉谷移住促進協議会（事務局 NPO 法人 大杉谷自然学校内）

会長：大瀬耕二 事務：福岡美恵子

電話：78-8888 Eメール：ijyu@osugidani.jp